CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
Provided by Niigata Regional Repository

P−25

FWS の活動報告　空飛ぶ車いすプロジェクト in スリランカ

新潟医療福祉大学Flying Wheelchair Supporters
天井仁美，池田愛，石川由佳子，井上捷太
大村夏純，栗栖亜実，柴田恭介，中野雅之
山口泰平，前田雄，須田裕紀，東江由起夫
University of Pittsburgh
大鍋寿一

【背景】空飛ぶ車いすプロジェクトとは，全国の約 35 校の工業高校を中心に，大学，ボランティア団体等の 40 以上の団体が一般の家庭や病院，施設等で使用されなくなった車いすを回収・修理し，東南アジアをはじめとする発展途上国に届ける活動である．1990 年に栃木工業高校でその活動が始まり，1999 年に公益財団法人日本社会福祉弘済会が主管となりプロジェクトを進めている．その活動は，回収ボランティア，修理ボランティア，輸送ボランティア，現地ボランティアで構成されている．FWS は，本学の大鍋名誉教授が中心となり 2007 年に発足したサークル活動である．現在では義肢装具自立支援学科を中心とした本学の学生 1~4 年生の総勢 65 名の部員が活動している．これまでに，国内外で回収，修理，輸送の活動を行ってきた．今回は 2014 年にスリランカ民主社会主義共和国で実施した車いすの輸送，修理，寄贈の活動について報告をする．特に，参加団体の中で我々は，唯一の医療福祉系の団体であるため，新たな取り組みとして車いすの寄贈の際に，対象者の身体状況を考慮した車いすの選定と簡易的なクッションを用いた調整を行った．

【方法】調整の方法は，座面，座幅に限定し，タオルや新聞紙で製作した簡易クッションを用いた．これは，現地の人が安価で入手でき，調整可能なものとした．座面用クッションを図 1 に示す．座面クッションは，バスタオルを折り，前方のアンカーサポート部分に新聞紙を入れることで骨盤の前方への滑り防止と圧力分散，座位下腿長の調整，大腿部後面での支持を目的とした．クッションの四隅に紐を縫い付け，車いすのフレームに固定した．座幅用クッションを図 2 に示す．新聞紙を筒状にしてタオルを巻いた．利用者が車いすに座った状態で両側に設置し，座幅を埋めることで側方への安定性を高めることを目的とした．

図. 1　座面用クッション

図. 2　座幅用クッション

さらに，利用者や介護者に安全に適切に使用していただくために，車いすとクッションの説明書を英語で作成した．車いすの説明書では，ブレーキのかけ方，段差昇降時の介助方法などを記載した．クッションの説明書ではクッションの設置方法，役割，調整方法を記載した．

【結果】活動では，合計 132 台の車いすを寄贈した．寄贈台数の詳細を表.1 に示す．調整作業では，本サークル(FWS)が中心となり，車いすの選定，フットサポートの調整，クッションの調整などを行った．クッションの調整では，主に骨盤が前方へ滑りやすい利用者には座面用クッションを，車いすの座幅が大きすぎる利用者には座幅用クッションを用いた(図 3)．寄贈と調整の際は，利用者本人とその家族とコミュニケーションを取りながら，生活環境や車いすの使用環境，身体状況，疾患，車いすの適合の状態を把握した(図 4)．そこで明らかとなったことは疾患の種類は日本と同じ傾向がみられた．その中でも脊髄損傷や脳性麻痺などがあった．

表. 1　寄贈台数内訳

寄贈場所	台数
リッチモンドキャッスル	112
障害者施設	5
ヒッカデュアのお寺	10
病院　※寄贈のみ	13

図. 3　座幅の確認

図. 4　車いすの説明

【結論】今回は，車いすの修理と寄贈だけでなく新たな試みとして，簡易クッションによる車いすの調整を行った．現地での調整を通して，車いすの適合に関するチェック項目，調整方法や簡易クッションの使い方についてなど，多くの課題を見つけることができた．さらに利用者様やその家族とコニュニケーションを図ることによって，使用環境や身体状況を把握することができ，空飛ぶ車いすプロジェクトに参加する唯一の医療福祉系の大学として，本サークルが担う役割は大きいと感じている．今後も車いすの調整や評価，説明書の作成などさらに改良を重ねて継続した取り組みをしていきたいと考えている．

【謝辞】本プロジェクトは「公益財団法人日本社会福祉弘済会」「新潟県社会福祉協議会平成 27 年度第 1 回県民たすけあい基金助成事業」の支援により活動しております．